隣保館だより

第402号

2019年 12月号

発行◉九重町隣保館
大分県玖珠郡九重町大字右田3088－2
TEL：0973-76-2468　FAX：0973-76-2446

「よき日のために」
～笑顔の花を　咲かせよう～

第20回　いのち・愛・人権フェスティバル

1948年12月10日に「世界人権宣言」が採択されたことを記念して、毎年12月4日から10日までを人権週間と定め、全国で様々な取組が行われています。九重町では、1998年12月7日に隣保館で差別落書きが発生し、多くの人々の心を傷つけました。この時に感じた差別へ対する「憤り」や「もう絶対にこんなことがあってはいけない」とみんなで心を一つにしたあの時の気持ちを風化させないために、今年も12月7日に“いのち・愛・人権フェスティバル”を開催しました。

今年は第20回目の節目であり、はじめて土曜日の日中に開催したこともあって、例年よりもたくさんの小中学生やその保護者の方々に参加していただくことができました。

また、部落解放同盟九重支部、飯田小学校の全校児童、ここのえ緑陽中学校、そしてハート降る♥ここのえ、それぞれの団体の皆さんによる素晴らしいステージ発表のおかげで、会場の皆さんは催しを楽しみながら、人権について改めて考えることができました。

【人権のステージ】

髙倉実行委員長

日野九重町長

部落解放同盟九重支部

飯田小学校

ここのえ緑陽中学校

ハート降る♥ここのえ

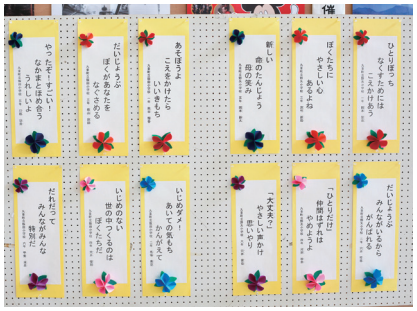
ハート降る♥ここのえと 実行委員

【人権のひろば】

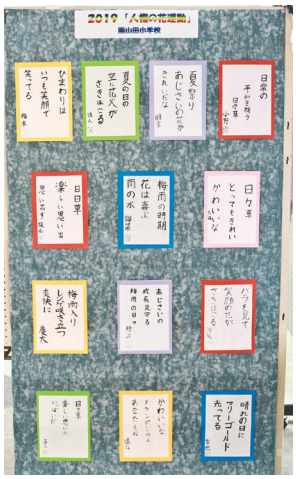
人権啓発パネル

テーマ

差別解消三法


人権標語

差別落書き


南山田小学校人権の花運動

各地区人・同啓

メッセージボード

笑顔の花を咲かせよう

たんぽぽの会・わーくすたんぽぽ

ハッスルシルバーズ

編み物

生け花

ホワイエの様子

会場の様子

第３回九重町隣保館人権学習会を開催しました

11月20日（水）に九重町隣保館において、特定非営利活動法人大分ＤＡＲＣ（ダルク）施設長の鈴永貴博さんをお迎えし、医療をめぐる人権をテーマに「薬物依存回復施設の現場より」と題して講演していただきました。

ダルクとは、1985年に日本で初めて創設された民間薬物依存症専門のリハビリ施設で、大分ダルクは平成９年に設立されました。（Drag Addiction Rehabilitation Centerの頭文字をとってDARCと言います）

薬物依存症とは、依存性薬物の乱用を繰り返した結果として生じる、脳の慢性的な異常状態で、使用をやめようと思っていてもコントロールが利かなくなる病気です。また適切な治療やプログラムで、回復は可能であるが完治はできない慢性的な疾患です。薬物を止められないことを、「意志が弱い」などと思われがちですが、「脳の病気」であることをまずはみなさんに知ってほしいと鈴永さんは話されました。また、薬物問題の取り組みについて日本と世界の動きを比較しながら、薬物使用について、日本では生涯経験率が他の国と比べ物にならないほど低く、取締りの強化や厳罰化、薬物乱用防止（ダメ。ゼッタイ）の啓発が進み１次予防に成功していると言えるが、一方で、薬物依存症の啓発が少ないため、薬物使用が発覚しても対応がわからず、叱ったり責めたりの対応で依存症としての適切な早期対応ができていないと話されました。鈴永さん自身、薬物依存症の経験者であり実体験を交えながら、誰でも「自分は絶対大丈夫」とか「すぐに止められる」と思っているかもしれないが、些細なきっかけで誰もがなりうる病気だということを理解し、薬物依存症本人も家族も社会から排除されることなく、回復できるよう支援する社会になることを力強くお話ししてくださいました。

ヒューマンフェスタ2019おおいたに参加しました

11月30日（土）に大分市で、～ともに認め合い　ともに育む　一人ひとりの人権～をテーマに開催されました。様々な人権と関わって活動している団体が一同に集まりパネルや体験を通じて紹介したり、県内に13ある隣保館等も活動紹介をしたり、会場を訪れた人と作品作りを楽しみました。また、県内隣保館職員を中心に構成された人権バンド“フレンズ”の皆さんによるステージ発表があり、会場の皆さんと手話ソングを一緒に歌って、楽しい時間を過ごしました。

◇これからの行事◇

【月・木は人権相談日】

月　日	行　事　名
12月25日(水)	生け花教室
12月26日(木)	デイサービス事業(ひまわり会)

月　日	行　事　名
１月 ６日(月)	編み物教室
１月 ９日(木)	デイサービス事業(つばき会)
１月16日(木)	デイサービス事業(コスモス会)
１月20日(月)	編み物教室